

地域おこし協力隊 活動レポート

卒業特別編



元地域おこし協力隊
さわい げんき
澤井 元気

▶問い合わせ
地域戦略課 ☎ 73-3011

3年前に家族3人で大阪より三豊市に移住してから、地域おこし協力隊としての活動に取り組み、6月末をもって任期を終了しました。

中山間地域の活性化に向け、楽しみながら取り組むことができたのは、ふるさとのために活動している地域の皆さんに勇気づけられ、支えていただいたからだに深く感謝しています。

たくさんの人と出会い、三豊の魅力を知るうちに、皆さんとの地域活動にやりがいを持って取り組むことができ、家族にとっても愛着を感じられる場所になりました。

ここでは、3年間の地域活動の中で特に印象深い3つの活動についてご報告するとともに、これまでのご支援とご厚意にお礼を申し上げます。

活動で大事にしたこと



私が地域活動に取り組む中で大事にしてきたのは、「知ること」と「行動すること」です。

まず、地域において続いてきた文化や営みを「知ること」で、それらを今の生活に生かす方法を考えることにつながりました。

そして、課題の解決や豊かな暮らしを生み出すためには、実際に「行動すること」が重要であると考えました。

活動報告

地域活動1 『放置竹林を生かす』

中山間地域を活動拠点としていた私は、かつてタケノコを収穫していた竹林が担い手不足により放置され、有害鳥獣の住処になったり、災害を引き起こしたりと地域課題になっていることを知りました。

まちづくり推進隊山本による竹林クラブの立ち上げに関わる中で、竹林を空間として再活用することや伐採した竹を農業に生かすことを考えるようになりました。

そこで自主企画事業として、竹を伐採し、それを粉碎することで竹チップを作ってみようというワークショップを2回開催しました。

参加者の間でコミュニケーションが生まれ、発酵させた竹チップを土壌改良材として活用したりと、地域の困りごとであった放置竹林が人と人をつなぎ、農業へ循環する企画となったことをうれしく思っています。



▲▶ワークショップで竹を伐採(右)し、竹チップを作りました(上)



▲地域の人と草鞋を作りました



◀完成した草鞋と使用した道具(はさみと針)

『文化や知恵をつなぐ』

地域活動2

地域の皆さんと関わるうちに、文化や知恵を生かすことで、地域の暮らしが作られてきたことを知りました。その中で、わらを「織る」ことで一本の縄ができるように、古くから続く知恵を次の世代に伝えていきたいという思いのもと、「NAU PROJECT」を立ち上げました。

この企画では、実際に日常の中で知恵を活用してきた地域の皆さんに、草鞋やしめ縄作りを教えていただきました。文化や知恵が継承されるだけでなく、地域の皆さんがやりがいを持って指導してくださったことが、何よりの励みになりました。

地域活動3 『記憶と美術を掛け合わせる』

これまでの歴史や人々の記憶がたくさん写真として残されていることを知り、私が大学で学んだ美術や芸術の技法を活用して、新たな作品として生まれ変わらしてみようと、地域の生涯学習活動の中でワークショップを開催させていただきました。

右の作品は、参加者の皆さんが持ち寄った写真を、版画の技法を使って大きな木の板に転写して作成したものです。

アルバムを開き、過去の記憶や思い出を語り合いながら、とっておきの写真を選び、その思い出がまた違う形として残っていくという一連のプロセスを楽しむ姿に、この企画の意義を感じました。



▲思い出の写真を木の板に転写した作品

これから

私は、三豊市に来るまで、大阪で家具を作る職人として働いていたのですが、「この商品は、どんな人が使うのだろう」とふと疑問に思うことがありました。

また、買い物をするときにも、「この野菜は誰が作り、この魚は誰が獲り、どういう風にしてここまでやってきたのだろう」と考えることがありました。

しかし、三豊で生活するうちに、生き生きと農産物などを作り届ける生産者と、それを暮らしの楽しみとしている消費者に出会い、全てがつながって見えるようになりました。

そして、文化や知恵が地域ならではの暮らしを作っていることにも、強く関心を抱いています。

こうした三豊での経験や人との出会いを通して、衣食住のあらゆる場面で暮らしを豊かにできるお店を海の見える場所でオープンさせたいと、現在、準備を進めているところです。

今日まで多くの支えがあったからこそ、さまざまな取り組みを実現することができ、この先も三豊で新しいチャレンジができるご縁をいただいたことをとてもありがたく思っています。

地域おこし協力隊としての任務はここで終了しますが、今後とも三豊の一員として末永くよろしく願いいたします。